札幌市

サンタおもてなし宣言

新生プロジェクトチーム発足

秋元市長「官民一体で取り組む」

「どうしんサンタ捜索チーム」再始動に伴い、サンタ捜索への協力の一環として「サンタおもてなし宣言」を発表することを明らかにした。28日、札幌市は記者会見を開き、サンタが訪れやすい街づくりを行うと宣言した。

札幌市の「サンタおもてなしプロジェクトチーム」は、サンタをおもてなしする体制を整備することで、サンタが訪れたくなる街を目指し、昨年11月に発足。職員や外部有識者ら8名が中心となって活動している。

秋元市長にかわった今年もその活動は受け継がれ、新生チームとして再出発。揺るぎない姿勢を示すために「サンタおもてなし宣言」を発表することにした。

「サンタおもてなし宣言」では、3つの柱を掲げている。1つ目は「夢を持つ子どもの育成」で、サンタがプレゼントを渡したくなる豊かな感性を持つ子どもを育成するため、教育を充実させる。2つ目は「子育て世代のサポート」で、サンタをおもてなしする大人、特に女性がイキイキと活躍できる環境を整備する。3つ目は「魅力ある街づくり」でサンタが訪れたくなるように多くの夢と希望が集まる街にするべく、観光政策に力を入れるとしている。

秋元市長は、この宣言について次のように語る。「今まで多くのサンタ目撃情報があるのは、サンタが札幌市を心から愛してくれている証拠。行政という立場から、その気持ちに応えたいという思いがある。どうか市民の皆さんにも協力いただきたい。みんなでより良い街をつくり、サンタを迎え入れましょう」。

サンタ誘導灯 5日、試験点灯

さらに、会見では、今年も札幌市役所本庁舎の照明でクリスマスツリーのシルエットを描くことでサンタを招き入れる「サンタの誘導灯」を点灯することを明らかにした。これは、捜索チームと札幌市の国際部とが協力し、ミュンヘンクリスマス市の事業の一環として計画されたもので、昨年は試験点灯中にサンタの影が横切ったとして話題になった。

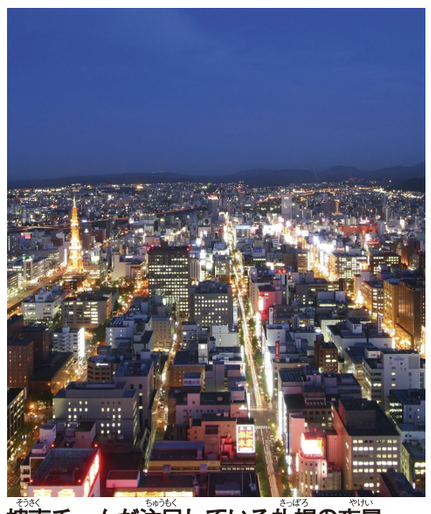
今年は12月5日の17時に実施するという。昨年のように、誘導灯に誘われてサンタが訪れるか、注目を集めている。

「サンタおもてなし宣言」を掲げる秋元市長＝28日、札幌市役所

どうしん夢プロジェクト

夜景スポットを張れ

日本新三大夜景都市表彰が影響か


捜索チームが注目している札幌の夜景

札幌の夜景。190万人が暮らす街は光量が多く、空気も澄んでいるため、夜景が美しく見えると高く評価された。その一報を受けて、捜索チームは、夜景に着目。「プレゼント配達中のサンタは超高速で移動しているため、ゆっくりと夜景を楽しむ時間がない。つまり、夜景を楽しもうと思ったら、必ずどこかの夜景スポットに出没するはず」と推測する。札幌の「JRタワー展望室T38」「藻岩山展望台」をはじめ、小樽の「毛無山」、函館の「函館山」、室蘭の「測量山」などに覆面捜査員を送り込む。カップルや家族連れに紛れて、目を光らせる作戦だ。

道内各所に捜査員を配備

捜索チームは今年の主な取り組みの一つとして、北海道各地の夜景スポットに捜査員を増強配備することを発表した。背景には、今年10月に開催された「夜景サミット」で決定した「日本新三大夜景都市」の表彰がある。夜景観光コンベンション・ビューローなどが主催したこのサミットにおいて、1位の長崎に次ぎ、見事第2位となったのが札幌だ。

市電の停留場に表示予定の「サンタサッポロスマイル」ポスター※写真はイメージ

「サンタサッポロスマイル」で「おもてなしの心」表現

28日の会見で、札幌市は「サンタサッポロスマイル」マークを今年も使用すると発表した。このマークは2013年、捜索チームとの協定締結により発表されたもの。市のシティプロモート戦略で用いられるマークの「P」部分にサンタの帽子をかぶせることで、「サンタをおもてなしする」気持ちを表現するものとして使用されている。

札幌市によると、まずは「サンタサッポロスマイル」マークを使った「クリスマス仕様」のポスターを制作し、サンタおもてなしの機運を高めるという。12月1日から札幌市電の24停留場48箇所の電子掲示板に表示予定。数種類のポスターが順次切り替わる設定になっており、始発から終電の最終通過時まで、6分間に1度の間隔で各々を見ることができる。また、市では「サッポロスマイル」マークを用いたグッズを販売していることから、「サンタサッポロスマイル」グッズを作成できないか、可能性を模索しているという。

「このマークは、サンタおもてなしプロジェクトチームの象徴。サンタはもちろん、多くの人に見ていただき、より浸透させたい」と語る秋元市長から、このマークへの期待度の高さが感じられた。

サンタクリップ 「本」が教えてくれる、クリスマス

読書は裏切らない。読めば読んだだけ、知力が身についていく。ぜひ、子どもたちにも小さな頃からその魅力に気づいてもほしいものである。クリスマスはその絶好の機会ではないだろうか。クリスマスは、子どもたちにとって永遠の謎。知らないことを教えてくれることが、本の価値であるならば、クリスマスの疑問解消に、本は少なからず役立つはずだ。

子どもが知りたいこと、例えば「クリスマスって、そもそも何？」から始まり、「何でクリスマスツリーを飾るの？」、「何でサンタクロースは、プレゼントをくれるの？」、「外国のクリスマスってどんな感じ？」など。子どもたちがそんな疑問をふと口にしたら、一緒に本屋へ向かおう。クリスマス本を開けば、きっとその答えがみつかるはずだ。

昨今インターネットやスマートフォンの普及によって、紙の本の価値が軽んじられている空気を感じる。電車の中で本を読む人の姿は、めっきり減った。一方で、電子書籍は今後ますます普及しそうだ。ただ、紙の本には、紙の本の良さがある。何より、手に取ることができる。紙の豊かな手触りや、工夫がこらされた美しい装丁を楽しむことができる。飛び出す仕掛け絵本なんてものも、紙の本ならでは。それは、家族や友達とともに楽しむことができ、そこから生まれるコミュニケーションはかけがえのない瞬間だ。紙の本。ぜひ、今年はクリスマス本を1冊手にとって、子ども達と一緒に読んでみてはいかがだろうか。

限定1名 特別限定企画

「ぶんちゃんサンタ」がやってくる！

訪問日時：12月23日(水・祝)午前中

ご応募いただいた方の中から、抽選で1軒のお宅にお邪魔して、記念撮影&うれしいプレゼントをお届けします！

※お届けの模様は、25日(金)の紙面で報告する予定です。紙面およびサンタ捜索フェイスブックに掲載可能な方のみ、ご了承の上ご応募ください。

応募要項 はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、お子様がいらっしゃる場合はお名前と年齢・学年を明記の上ご応募ください。

宛先 〒060-8711（住所不要）北海道新聞社広告局 サンタ捜索プロジェクト係

募集締切 12月15日(火)当日消印有効

当選発表 12月18日(金)までにお電話で連絡します。

※ご応募の際の個人情報は、本事業以外には使用いたしません。

サンタ情報求ム
2015サンタ捜索チーム

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。ご理解、ご了承願います。次回は12月2日朝刊予定

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。